

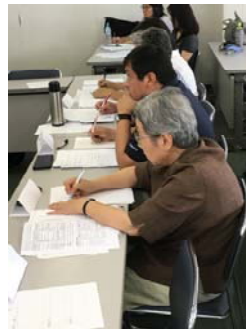
第1回ピアサポーター養成講座報告書

日付け	2018年7月7日（土）	
時間	9:30～12:00	
場所	生涯学習センター	
参加人数	7人	
内容	①概要説明	コモンズの紹介、市役所あいさつの後、ピアサポーターの概要説明、注意事項を確認した。優しい日本語で説明し、分からなそうなところは語彙を確認しながら行った。注意事項（誓約書の内容）に関して、情報漏えいは厳禁であること、プライバシーは守ることなどを確認した。
	②自己紹介	自己紹介では市役所職員も含め、名前、国籍、滞在年数、好きな食べ物、これまでの活動(外国人支援)について一人ずつ発表してもらった。
	③制度・課名確認	ワークショップ「制度を確認しよう！」 ワークショップとして、受講者に制度名（国民健康保険、児童手当等）が書かれた32枚のカードを配り、その制度を知っているものと知らないものに分けてもらった。知らないものに関しては、市役所の方と一緒にペアになって、どういう制度か説明してもらいながら、一つ一つ確認した。また、その制度がどの課で対応しているのかを、模造紙に書かれた常総市役所の館内図と照らし合わせながら、クイズ形式で確認を行った。
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・制度のかなり細かいところまで知りたい人が多いようだったが、それでは市役所の方もわからない部分もあるということで、今後は、どこまで説明するか検討する必要がある。</li> <li>・受講者が7名と少ないとの意見があったので、受講者を増やせるよう今後もアピールする必要がある。</li> </ul>	



第2回ピアサポーター養成講座報告書

日付け	2018年7月14日（土）	
時間	9:30～12:00	
場所	生涯学習センター	
参加人数	7人(3人欠席)	
内容	①あいさつ	今回から参加の方が3人いたので、前回の内容を踏まえ、ピアサポーターとは何か、確認した。
	②制度説明	講義形式で、健康保険（国民健康保険、健康保険など）と年金（厚生年金、国民年金など）を、学んでもらった。国民健康保険と健康保険、高専年金と国民年金の違いや、扶養について確認した。
	③質疑応答	健康保険、年金について質問をとった。特に厚生年金に関する質問が多く、厚生年金のメリットや、会社での対応について受講者は質問していた。その他、高額療養費制度や、何年年金を払えば受け取れるのか、脱退一時金に関する質問があった。
	④ケーススタディ	講義を踏まえ、これまで相談を受けた事例について一人ずつ話してもらった。また、講義の内容を踏まえ、一人一人に感想を言ってもらった。これまで受けた相談については、社会保険の加入についての相談が多いうえだ。また、講義を踏まえた感想をとして、特に、社会保険に関する関心が多く、厚生年金の方がメリットがあることについて学ぶことが多かったとの意見があった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回も制度のかなり細かいところまで知りたい人が多かった。最初に概要を説明するとは伝えたが、やはり制度の詳細を知りたいようで今後の進め方を検討する必要がある。</li> <li>・むずか医師用語も多いため日本語にあまり聞き取れていない受講者もいたようだったが、一生懸命メモを取り、ほかの受講者に説明してもらうなど一生懸命取り組んでいる姿が見られた。今後はレジメをやさしい日本語にしたり、ゆっくり話すなどして対応したい。</li> </ul>	



第3回ピアサポーター養成講座報告書

日付け	2018年7月21日（土）	
時間	9:30~12:00	
場所	生涯学習センター	
参加人数	6人(3人欠席)	
内容	①制度説明	生活保護、困窮者支援制度、児童手当、児童扶養手当について説明をした。生活保護（生活・教育・医療・住宅・出産・生業・葬祭扶助）、生活福祉資金（お金を借りる制度）、生活困窮者支援金、児童手当、児童扶養手当（一人親家族への手当）、特別児童扶養手当について、概要を説明した。また、サービスを受けるポイントとして、①税金を払っていること、②収入の有無が重要であるとの説明があった。
	②質疑応答	制度に関する質問を出してもらい、市役所の方に答えてもらった。 <ul style="list-style-type: none"> <li>一人親家庭をどう判断するか。→結婚・離婚証明書の提出、自宅訪問で判断</li> <li>生活保護を受け取っている者は、国民年金や国民健康保険を払わなくていいのか。→一年金は日本国籍は免除、外国籍は減免など。健康保険は払わなくてよい。</li> <li>離婚したくても出来ない家庭（DVなどによって）には、生活保護や児童扶養手当が支給されるのか。→家庭裁判所や警察の事情徴収により、「DV保護命令」が出れば、適応する場合がある。</li> <li>税金を滞納している場合は、手当などは受け取れるのか。→児童扶養手当、児童手当は出るが、他の制度は厳しい。</li> <li>出産祝い金は、外国人はもらえるのか→永住者のみもらえる。一人目、5,000円、二人目10,000円、三人目20,000円</li> <li>社会保険から国民保健へ。しかし、厚生年金に入りたいが、それは可能か→それはできないが、国民年金基金で、+αの年金を払うことはできる。</li> </ul>
	③ケーススタディ	これまでの経験や相談内容を発表してもらい、どのような課題があったか共有した。
	④感想・パンフ修正に向けて	講義を踏まえ、感想と、次回のパンフレット修正に向けての案を出してもらった。生活保護に関する感想が多く、パンフレットには、生活保護の対象者を明記し、簡単にはもらえる物ではない事を周知させようとの意見があった。市役所の方も生活保護は本当に困っている方対象なので、サポートするときは、そのことを十分に説明してほしいとのことだった。また、制度名については、直訳せずに、ローマ字表記にしたほうが、誤解を与えずに良いとのことだった。
課題	質問や、経験談を語る方が、特定の方になっているので、もっといろんな意見を、すべての受講者から聞けるよう、配慮したほうがいい	



第4回ピアサポーター養成講座報告書

日付け	2018年8月4日（土）	
時間	9:30～12:00	
場所	生涯学習センター	
参加人数	7人（2人欠席）	
内容	①あいさつ 大泉視察報告	市役所職員、コモンズスタッフで7月24日に視察した群馬県大泉町役場の取り組みについて説明した。市長の意欲が高いこと、「文化の通訳者」というピアサポーターに類似した住民ボランティアを配置していることなどを報告し、常総市でのピアサポーターの役目について再度確認した。
	②ガイドブック修正の検討 （健康保険、年金）	ガイドブック修正のため、まず用意した修正案を確認し、内容やレイアウトについて検討した。 Yes/No形式で自分が該当する保険の種類を分かりやすく記述したレイアウトや、健康保険と国民健康保険についての常総を表にしてまとめ、両者の違いやメリットが分かりやすくした方がよいなど、様々な意見が挙がった。
	③ガイドブック修正の検討 （児童手当など）	福祉サービスに関する修正案についても、受講者から意見を出してもらい、表を使って分かりやすく記載することになった。児童扶養手当は、親が一人親の場合に支給されることなど、必要最低限の内容をやさしい日本語で記述し、詳しい内容は載せないとのことで合意した。詳しい内容はピアサポーターまたは、市役所に尋ねるという方向で、パンフレットはあくまでイラストが多くて、見やすいものにするようになった。
課題		



第5回ピアサポーター養成講座報告書

日付け	2018年8月18日（土）	
時間	9:30～12:00	
場所	生涯学習センター	
参加人数	5人（4人欠席）	
内容	①あいさつ	
	②教育制度について知ろう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校系統図の説明</li> <li>・幼稚園、保育園、認定こども園について:手続きをどこで行うのか、何歳から入園できるのか、いつ申し込むかの確認。</li> <li>・義務教育段階について: 6・3制について。日本国籍と外国籍で就学案内が異なること。</li> <li>・高等学校: 入試が必ずあること、入試を受けるために義務教育段階が修了していること、「外国人特別選別」についての説明。</li> <li>・就学手続: 市役所、教育委員会で申込。</li> <li>・よくある質問の説明: ①過年齢、年齢の違う学年への入学、②ビザが無い場合の就学、③奨学金と就学援助金、④国際学級について</li> </ul>
	③伝えたいことを出し合おう	<p>講義内容を聞いて、保護者に伝えた方がいいことを挙げてもらった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>→外国人学校と公立学校のメリット・デメリット</li> <li>→子どもの将来を考えて、親に選択してもらうこと</li> <li>→奨学金や支援金について（みんながもらえるのではない）</li> <li>→口コミだけを信じるのではなく、市役所やピアサポーターにも相談してほしい</li> </ul>
課題		



第6回ピアサポーター養成講座報告書

日付け	2018年8月25日（土）	
時間	9:30～12:00	
場所	生涯学習センター	
参加人数	6人（3人欠席）	
内容	①あいさつ	
	②教育制度について復習しよう	<p>【前回の復習と質問】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校系統図の説明</li> <li>・幼稚園、保育園、認定こども園について:手続きをどこで行うのか、何歳から入園できるのか、いつ申し込むかの確認。</li> <li>・義務教育段階について</li> <li>・高等学校:入試が必ずあること、入試を受けるために義務教育段階が修了していること、「外国人特別選別」についての説明。</li> <li>・就学手続:市役所、教育委員会で申込。</li> </ul> <p>よくある質問の説明:①過年齢、年齢の違う学年への入学、②ピザが無い場合の就学、③奨学金と就学援助金、④国際学級について、⑤外国人学校と公立学校の違い</p>
	③ガイドブックを考えてみよう	<p>教育制度について、二人一組のグループになって、A3両面の紙を配布し、どのようなレイアウトがいいか、考えてもらった。</p> <p>配布した資料の図や表を切り貼りしながら、どのテーマ（系統図、料金、奨学金制度、受験など）を載せるか、グループごとでまとめてもらい、発表してもらった。また、補足してほしいことなども付箋に書いて貼ってもらった。</p> <p>一系統図、料金、奨学金制度、受験についてはどのグループも載せて欲しいとのことだった。補足として、①特別支援学校の情報を載せる、②不登校の子への支援、③給食費、PTA会費、修学旅行費など、小中学校でもお金を徴収していることについての記載との意見があった。</p>
課題	<p>色々な情報がある中で、何を載せた方がいいか選択し、まとめるのに苦戦している様子だった。こちらである程度情報を絞ったりして、詳しい内容は、「ピアサポーターや市役所に相談してください」と書くなど工夫が必要である。</p>	



第7回ピアサポーター養成講座報告書

日付け	2018年9月1日（土）	
時間	9:30～12:00	
場所	生涯学習センター	
参加人数	6人（3人欠席）	
内容	①あいさつ	今回は特別講師として税理士を招いて、「税制度」について講義をして頂いた。
	②税制度について知ろう	「所得税」と「市民税」について講義していただいた。 内容は、制度の仕組みについてであった。例えば、「確定申告」に関しては、語彙一つ一つの説明をしてもらった。 外国人の方々が注意する点としては、日本で滞在した後、所得税等を払わず出国してしまうと、滞納扱いになり延滞金が発生するため気を付けることとの説明があった。
	③知りたいことを聞こう	受講者からは、「ボランティア活動していた場合は、収入として申告しなければならないのか」、「扶養家族が多い場合、払う額はいくらになるのか」、「子供が扶養になるのは何歳からか」などの質問が出た。
課題	受講者から、用語が難しいとの意見があったので、税制度に関する用語集を事前に配布したり、一つ一つの用語を確認しながら進行するなど対策すべきだった。	



第8回ピアサポーター養成講座報告書

日付け	2018年9月15日（土）	
時間	9:30～12:00	
場所	生涯学習センター	
参加人数	5人（4人欠席）	
内容	①あいさつ	前回の復習も兼ねて、「税制度」、とりわけ住民税と所得税、国民健康保険税について講義した。外国人が留意すべき点について、例えば、帰国したり、年度の途中で会社を退職した場合も、住民税は納税しなければいけないことなどを確認した。また、住民税を納税しなかった場合は、延滞金が発生するため注意する必要があるという説明もあった。
	②税制度を復習しよう	
	③ガイドブック案を考えよう	さいたま市、豊橋市など他地域の税金に関するしおりやパンフレットをもとに（多言語版あり）、必要な箇所を切り貼りして、ガイドブックの案を個人個人考えてもらった。
課題		





第9回ピアサポーター養成講座報告書

日付け	2018年9月22日（土）	
時間	9:30～12:00	
場所	生涯学習センター	
参加人数	6人（3人欠席）	
内容	①あいさつ	
	②小学生による「リサイクル動画発表会」	夏休みの間モنزズの学童に来ていた子どもたちが作成した「リサイクル動画」の発表会を行った。これは、子ども達がゴミの出し方について動画を作成したものである。日本語とポルトガル語の字幕付きで、ゴミの捨て方や、ごみ処理の過程を子ども達が説明した動画である。動画作成に当たっては、大学の先生及び大学生に協力してもらった。当日は、ピアサポーターの他に、大学の先生、大学生、学童の子ども達及びその保護者が参加して下さいました。 リサイクル動画の発表後に、ピアサポーター養成講座の受講者に質問をもらい、動画の疑問点や感想を述べてもらった。改善点として、英語字幕など、ポルトガル語以外の言語での字幕があった方がいいとの意見があった。また、ごみを出すときに、ペットボトルを洗うなど水を使うことが多いので、水問題のことも考えた方がいいとの意見も上がった。
	③「生活」分野について学ぼう	ゴミの出し方、水道、仕事、自治会など生活に関わることについて講義を行った。外国人の方が困ることや、気を付けた方がいいことについて、受講者から意見を出してもらいながら進めていった。 ゴミの出し方は、水海道地区と石下地区で異なることを周知させる、自治会は加入には、メリット（地域との交流、市の情報が入ってくる、ごみ捨ての許可など）とデメリット（自治会費がかかるなど）がある。自治会加入については、各自治会は区長に相談し他方がいいとの意見があった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「リサイクル動画」の修正および、周知の方法の具体化。</li> <li>・ゴミの出し方や自治会加入は、地域、地区によって異なるので、それらの情報をどこまでパンフレットに載せるか検討する必要がある。</li> </ul>	



第10回ピアサポーター養成講座報告書

日付け	2018年10月6日（土）	
時間	9:30～12:00	
場所	生涯学習センター	
参加人数	5人（4人欠席）	
内容	①あいさつ	日程変更について報告
	②「生活」分野についてガイドブック案を考えよう	<p>前回の復習をした後、2つのグループに分かれて「生活」分野のパンフレット案を考えてもらった。前回の内容をもとに修正したレジメと、各地域の外国人のための生活ガイドブックを参照し、レイアウトや内容を検討してもらった。</p> <p>受講者はガイドブック案の検討にも慣れ、自分たちの意見を反映させつつ、取り組めるようになった。また、レジメや既存のガイドブックをそのまま真似するというよりは、自分たちの経験を踏まえて、何に困ったか、この仕組みはわかりにくいなど、受講者なりの考えを反映させたガイドブックを考えており、とてもいい雰囲気でもグループワークが進められた。例えば、火災、震災の時の保険について載せたほうが良いなどである。</p>
課題		



第11回ピアサポーター養成講座報告書

日付け	2018年10月20日（土）	
時間	9:30～12:00	
場所	生涯学習センター	
参加人数	3人（6人欠席）	
内容	①あいさつ	
	②防災について	地震、水害、火事発生時の対処法や避難場所について確認した。特に、常総市は2015年に水害に見舞われたため、受講者に当時の様子や困ったところについて話してもらった。また、防災リュックを紹介し、必要な物などを確認した。 実際、水害を経験した受講者が多く、防災リュックをみて、「これは大事！」「これは必要！」と発言する方が多く、準備しておくことの大切さを外国人に伝えたいといけなとの意見があった。また、避難場所の看板の設置や、SNSのシステム構築などの意見も上がった。
	③今後の活動について	これまでの講義を通して、具体的にどのような活動をするか、議論した。その中で、常総市で行われるイベント（地域活動や教会でのイベント）で、出前としてピアサポーターを派遣し、そこでこれまで学んだことを紹介するといった活動から始めたらいいのではと提案した。また、ピアサポーターのグループを作り、代表を決めることで、ピアサポーター主体で今後活動していくよう提案した。その際、医療通訳や在留資格、法律などのことも学ぶ必要があるとの意見が上がり、専門性を高めた通訳者、ピアサポーターの育成が今後の課題として挙げられた。
課題		



第12回ピアサポーター養成講座報告書

日付け	2018年11月3日(土)	
時間	13:00~15:30	
場所	生涯学習センター	
参加人数	3人(6人欠席)	
内容	①あいさつ	挨拶、ピアサポーターとは、水野真木子先生紹介
	②コミュニティ通訳とは	コミュニティ通訳とはなにか、そもそも通訳とは何をするのか、通訳としての態度や倫理観について、水野先生が講義していただいた。通訳としてどんな役割があるのか、先生が経験した体験談や事例を踏まえて、分かりやすく説明していただいた。
	③グループワーク	後半は3~4人のグループになって、事例問題をだし、その課題に対するコミュニティ通訳の関わり方や対応について考えてもらった。自分の生活やプライベートを大切にしつつ、相手と接することの重要性を受講者で共有した。(善意が先行しすぎて、自分のプライベートを犠牲にしたりしすぎないことなど)
	④まとめ	まとめの中で、いくつか質問をうけた。①人間かAIか(AIが発達したら人間の通訳は必要なくなるのではないか)、②友人の通訳で、「うそ」を伝えなければならないときどうしたらいいか、③英語の需要が少ないと言われると不安、④コミュニティ通訳が仕事として確立するためには、どのような教育が必要かといった質問が挙がった。
課題	全12回の講座が終了した。12回を通してまだまだ課題もあるし、考えるべきことも多々あるが、受講者が少しでもピアサポーターとしての自覚を持ち、今後活動してくれるよう、これからの活動方法を具体化していく必要がある。	

